



被災地での活動報告

岡山で県社福協、AMD A職員 NPO関係者に

東日本大震災で被害を受けた宮城県多賀城市や岩手県大槌町などに派遣された、県社会福祉協議会（岡山市北区南方）と国際医療ボランティアティアAMD A（本部・同伊福町）の職員が29日、同南方の震災被災地での活動報告を聞いた岡山NPOセンターの定例会

きらめきプラザで活動報告をした。

同協議会主任の石井慎一さん(38)とAMD Aの大政朋子プロジェクトオフィサー(39)。

石井さんは4月に多賀城市の災害ボランティアセンターでボランティアの配置などを担当した。その日にならぬ人とボランティアが何人来るか分からない実

態を紹介し、配置のポイントとして「効果的に割り振るためには、地域の支援ニーズに優先順位を付けて把握しておくことが必要」と話した。

4月から5月にかけて大槌町を中心に、派遣される医師の受け入れ準備などに当たった大政さんは「鍼灸の人氣が高いことに驚い

た。体の痛みだけでなく触れ合いの中で心も癒やしていた」と述べ、今後、岡山からも鍼灸師を派遣していくことを説明した。寝たきりにならないための活動や、子ども向けにプレ

イパークを作るなどの取り組みも披露した。県内のNPO法人を支援する岡山NPOセンター（岡山市北区表町）の定例会で講演。約30人が聞いた。

（佐藤貴宏）